ミクロ経済分析	講義　2単位　1学期
Micro Economics	

【担当教員】

李 志東

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟306室

【授業目的及び達成目標】

限られた資源のもとで、人々の満足度を高めるために、家計、企業、政府といった経済主体がどのように行動すべきか、その結果最適な資源配分が達成されるかどうかなど、ミクロ経済学の基礎に関する理解を目的とする。応用課題として、公害問題や地球温暖化問題など環境問題に関する経済学的意味付けと対策検討もあわせて行う。最終的に、経済、産業などの業界誌、新聞の読解能力を身に付け、独自の情勢判断ができることを目標とする。

【授業キーワード】

経済主体、合理的行動、市場メカニズム、消費者行動と効用最大化、企業行動と利潤最大化、市場均衡と最適、市場の失敗と計画の失敗

【授業内容及び授業方法】

私たちが日々見聞きしている現実の経済問題と関連付けつつ、基本的考え方と諸概念に重点を置き、ミクロ経済学の基礎知識を習得する。講義に当たって、復習と内容理解に関する質疑応答を随時行う。

【授業項目】

1. ミクロ経済学の概要(1回)
2. 消費者行動と需要関数(4回)
3. 生産者行動と供給関数(4回)
4. 市場均衡の理論(3回)
5. 「市場の失敗」と「計画の失敗」(1～2回)

【教科書】

「入門　価格理論第2版」倉沢資成、日本評論社

【参考書】

追って指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

質疑応答と持ち込み可の筆記試験を総合して評価する。

【留意事項】

日常的に、経済関連の出来事に関心を持ってほしい。

現代社会の構造と変動	講義　2単位　1学期
Construction and Change in Modern Society	

【担当教員】

渡辺 登

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

社会学の基本的な考え方を修得するとともに、これに基づいて現実に生起する社会的諸事象を客観的に把握できるようにすることを目的とする。

【授業キーワード】

自明性の暴露

【授業内容及び授業方法】

社会学の基本的な見方を日常的な事例を考える中で修得していく。
なお、理解度を測るために数回毎にテストを行う。

【授業項目】

1.社会学と隣接諸科学(1回)
2.社会学的考え方とは何かー「常識」の相対化
(1) 潜在的機能と顕在的機能(2-4回)
(2) ラベリング理論(5・6回)
(3) ジェンダー(8・9回)
3.社会学的説明と記述ー因果関係(10・11回)
4.社会学と社会調査(12・13回)
(1)「調査」の嘘を見破る方法
(2) 実際の調査はどのように行うのか
5.現代社会を読み解く(14・15回)

【教科書】

教科書は指定しない。

【参考書】

参考書については講義において指示する。

【成績の評価方法と評価項目】

試験80%、出席20%

【留意事項】

授業中の私語、出入りについては減点の対象にする。

政治システムと国際社会　　講義　2単位　1学期
Political System and International Society

【担当教員】

浅川 公紀

【教員室または連絡先】

非常勤講師(連絡先:体育・保健センター三宅教官9822)

【授業目的及び達成目標】

世界の国々の政治システムは議院内閣制、大統領制などさまざまである。アメリカでは大統領が内政、外交を最終的に決定する。本年度はアメリカ大統領制に焦点を当て、現代アメリカ政治外交の仕組みを体系的に把握する。

【授業キーワード】

アメリカの大統領制　大統領のリーダーシップ　外交官僚機構　連邦議会　公衆と外交

【授業内容及び授業方法】

上記内容に沿った教科書を用いて講義を進めるが、その間、授業科目に見合ったカレントな情報もできるだけとり入れる。

【授業項目】

米国の国際関係
大統領の優位性
大統領の権限と範囲
大統領の決定スタイル
大統領をサポートする官僚機構
大統領に対抗する議会
世論と大統領
第4の権力メディア
利益団体とロビー活動
シンクタンクの政策提言

【教科書】

授業開始前に指示する。事前に読んでおくこと。

【成績の評価方法と評価項目】

授業最終日に試験を行う。授業中に提出してもらうレポートも評価の対象になる。 出席点を重視する。

【留意事項】

私語を慎むこと。

憲法と現代	講義　2単位　1,2学期
The Constitution of Japan	

【担当教員】

（未定）

【授業目的及び達成目標】

国家の基本法で、日本社会の構成原理である日本国憲法について学習することにより、現代の社会に起きている事象を理解し、考察できるようになることを目指す。また、多様な考え方が成り立つという、社会科学的な思考方法についても学習する。

【授業キーワード】

国民主権、基本的人権、平和主義、国会、内閣、裁判所

【授業内容及び授業方法】

講義は、毎回配布する講義レジュメに沿って行う。講義内容に関連した資料を配布し、また、ビデオ等を活用することにより、理解を深める。

【授業項目】

1　憲法と立憲主義
2　日本国憲法の原理
3　国民主権と天皇制
4　平和主義
5　基本的人権とその限界
6　幸福追求権、法の下の平等
7　思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由
8　表現の自由、集会・結社の自由、通信の秘密
9　職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権、人身の自由
10　参政権、生存権、教育を受ける権利、労働基本権
11　権力分立の原理、国会
11　内閣
13　裁判所
14　財政、地方自治、憲法改正
15　（試験）

【教科書】

指定しない。

【参考書】

「憲法」（新版、補訂版）芦部信喜著（岩波書店）

【成績の評価方法と評価項目】

小レポート、学習態度、試験（又は最終レポート）により総合的に評価

【留意事項】

日常的に、マスコミなどにより、社会の出来事に関心を持ってほしい。

行動と心理　　講義　2単位　2学期
Action and Psychology

【担当教員】

向後 千春

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

この授業の目的は、心理学のさまざまな話題を取り上げて、実際に自分たちで実習や実験をやってみることによって、その考え方や理論を身に付けていこうということです。そうして身に付けた考え方は、単なる知識ではなく、自分の人生や生き方に何らかの形で役に立つものになるでしょう。

【授業キーワード】

心理学、社会心理学、認知心理学、行動分析学、性格、信念、知覚、記憶、学習

【授業内容及び授業方法】

心理学の全体像を、講義と実験の体験によって学んでいきます。毎回の授業は、実験参加とレクチャーと質疑応答からなっています。

【授業項目】

1. ■導入:心理学ってなに？
2. 自分の性格を知る
3. 心理テスト
4. 単純接触効果
5. 錯誤帰属
6. 認知的不協和
7. 不合理な信念
8. ■中間試験
9. 行動分析学の基礎
10. 行動分析学の応用
11. 知覚と情報処理
12. サブリミナル効果
13. 記憶のしくみ
14. 人生は問題解決
15. ■最終試験

【教科書】

自作のワークブックを使用します。教室で購入してください(1000円)。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績の評価方法と評価項目】

成績は、中間テストと最終テストによって決めます。テストはオープンブック(何を持ち込んで参照してもよい)形式です。

システム思考論　　講義　2単位　2学期
System Thinking

【担当教員】

中村 和男

【教員室または連絡先】

化学・経営情報1号棟405室

【授業目的及び達成目標】

人類の生存や諸活動は、実世界の複雑に絡み合うさまざまな要素との関係の中で成り立っている。科学技術の発展と人口の急速な増大は、人類の生存や活動においてそうした関係を意識的にとらえていかなければ問題の本質をおさえられず、解決していくことも困難な状況をもたらしている。本講義では、対象をシステムとして認識し、部分と全体及びその相互関連性を分析し、これを合成するためのシステム概念、システム理論、システム技法の諸相を概説しシステマチックな思考法を培うことを目的とする。

【授業キーワード】

一般システム，要素と全体，相互関連，複雑性，システム工学，システム分析，システム合成，最適化，意思決定

【授業内容及び授業方法】

システムの一般的定義及びその一般的性質の理解から始めて、対象をシステムとして認識する考え方及びそれをシステムとして記述、分析、合成する方法を具体例を用いながら習得してもらう。授業の進め方としては，適宜プリントを配布し解説を加えるとともに，例題や演習問題を通して考え方や手法を体得してもらえるように努める。

【授業項目】

1. システムとは(1回)
   システムという用語の使い方，モノのとらえ方，その具体的例示
2. システムの一般理論(2回)
   一般システム論，システムの分類と具体例，システム概念の数理的考察
3. システム科学とシステム工学(1回)
   システムの基礎論と他分野への適用，システム工学における諸相
4. システムの表現(4回)
   目的の構造化と効用関数，対象のモデル化(グラフ，微分方程式，オートマトン)
5. システム合成と分析(4回)
   システム合成の方法(実現可能性，発想支援)，システム分析の方法(構造特性，動的安定性，シミュレーション)
6. 適正なシステムの選択(1回)
   目的関数と制約条件，数理計画手法，その他の柔軟な手法
7. 新たなシステム思考(1回)
   学習，自己組織，自律分散，知的システム

【教科書】

なし。ただし、プリントを配布する。

【参考書】

フォン・ベルタランフィ著「一般システム理論」、H.A.サイモン著「新版　システム科学」(パーソナルメディア)、渡辺茂・須賀雅夫著「新版　システム工学とは何か」(日本放送出版協会)，飯尾要著「情報・システム論入門」(日本評論社)

【成績の評価方法と評価項目】

1.レポート(演習問題を含む)　30%
2.学期末筆記試験(配布資料の持込可)　60%
3.授業態度(受講状況や質疑の態度)　10%

【留意事項】

この講義は総合科目2類Bの「システム工学概論」につながる科目であり、その前に履修することが望ましい

情報検索論　　講義　2単位　1,2学期
Introduction of Information Retrieval

【担当教員】

植野 真臣・森 茜

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟309室(植野), 非常勤講師(森)

【授業目的及び達成目標】

現代人の生活にとって、情報資源の活用は必須の条件となっている。このため、新聞・雑誌・図書等の刊行物に関わる情報を中心に、必要とされる情報の効率的な選択に必要な検索理論、検索システム、検索戦略について、基礎知識と技術を学ぶ。

【授業キーワード】

学術情報、レポート作成技術、プレゼンテーション技術、インターネット、パソコン

【授業内容及び授業方法】

複数の教官及びこの分野の専門家の協力により、講義及び実際の情報機器の操作を併用して進める。

【授業項目】

1. 教育・学術・文化と情報(1回)
2. パソコンの操作(1回)
3. インターネット情報検索(1回)
4. 図書館情報検索(5回:情報収集・選択方法、図書館の資料、書誌と所蔵と分類、データベースの基礎、まとめ)
5. 学術情報と図書館(1回)
6. レポート作成技術(2回)
11. プレゼンテーション技術(3回)
12. 総括まとめ・ディスカッション(1回)

【教科書】

特に使用しない。

【成績の評価方法と評価項目】

小テスト(40%)
レポート(40%)
学習態度(20%)

【留意事項】

1学期、2学期とも、人数は30名。同一単位、同一内容の授業とする。希望者は、いずれかの学期において履修してよい。

e-システム思考論	講義　2単位　2学期
e-System Thinking	

【担当教員】

中村 和男

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟405室

【授業目的及び達成目標】

人類の生存や諸活動は、実世界の複雑に絡み合うさまざまな要素との関係の中で成り立っている。科学技術の発展と人口の急速な増大は、人類の生存や活動においてそうした関係を意識的にとらえていかなければ問題の本質をおさえられず、解決していくことも困難な状況をもたらしている。本講義では、対象をシステムとして認識し、部分と全体及びその相互関連性を分析し、これを合成するためのシステム概念、システム理論、システム技法の諸相を概説しシステマチックな思考法を培うことを目的とする。

【授業キーワード】

一般システム，要素と全体，相互関連，複雑性，システム工学，システム分析，システム合成，最適化，意思決定

【授業内容及び授業方法】

システムの一般的定義及びその一般的性質の理解から始めて、対象をシステムとして認識する考え方及びそれをシステムとして記述、分析、合成する方法を具体例を用いながら習得してもらう。授業の進め方としては，適宜解説を加えるとともに，例題や演習問題を通して考え方や手法を体得してもらえるように努める。

【授業項目】

1. システムとは(1回)
   システムという用語の使い方，モノのとらえ方，その具体的例示
2. システムの一般理論(2回)
   一般システム論，システムの分類と具体例，システム概念の数理的考察
3. システム科学とシステム工学(1回)
   システムの基礎論と他分野への適用，システム工学における諸相
4. システムの表現(4回)
   目的の構造化と効用関数，対象のモデル化(グラフ，微分方程式，オートマトン)
5. システム合成と分析(4回)
   システム合成の方法(実現可能性，発想支援)，システム分析の方法(構造特性，動的安定性，シミュレーション)
6. 適正なシステムの選択(1回)
   目的関数と制約条件，数理計画手法，その他の柔軟な手法
7. 新たなシステム思考(1回)
   学習，自己組織，自律分散，知的システム

【教科書】

なし。ただし、プリントを配布する。

【参考書】

フォン・ベルタランフィ著「一般システム理論」、H.A.サイモン著「新版 システム科学」(パーソナルメディア)、渡辺茂・須賀雅夫著「新版 システム工学とは何か」(日本放送出版協会)，飯尾要著「情報・システム論入門」(日本評論社)

【成績の評価方法と評価項目】

1.レポート(演習問題を含む)　30%
2.学期末筆記試験(配布資料の持込可)　60%
3.授業態度(受講状況や質疑の態度)　10%

【留意事項】

※本科目は、eラーニング科目として、科目等履修生、及び聴講生もしくは単位互換協定にかかる特別聴講学生に対して開講されたものであり、本学に通学しなくても遠隔地等の学外から履修できる遠隔授業科目である。よって、これ以外の本学学生は履修できない。

この講義は総合科目2類Bの「システム工学概論」につながる科目であり、その前に履修することが望ましい。